２　麦　類

(1)　要　旨

ア　作付面積

平成26年産４麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の子実用作付面積は27万2,700haで、前年産に比べて3,200ha（１％）増加した（表２－１、図２－１）。

イ　収穫量

平成26年産４麦の子実用収穫量は102万2,000ｔで、前年産に比べて２万7,400ｔ（３％）増加した（表２－１、図２－１）。

図２－１　４麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

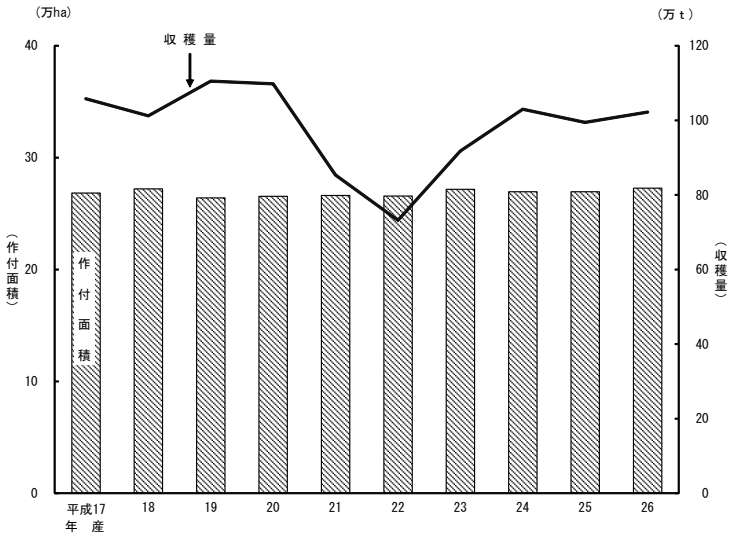


表２－１　平成26年産４麦（子実用）の作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考）10a当たり平均収量対比	（参考）10a当たり平均収量
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
全国										
４麦計	272,700	…	1,022,000	3,200	101	nc	27,400	103	nc	…
小麦	212,600	401	852,400	2,400	101	104	40,700	105	106	379
二条大麦	37,600	288	108,200	100	100	93	△ 8,400	93	89	325
六条大麦	17,300	272	47,000	400	102	89	△ 4,500	91	93	294
はだか麦	5,250	276	14,500	240	105	94	△ 200	99	97	284
北海道										
４麦計	125,200	…	557,300	1,400	101	nc	20,300	104	nc	…
小麦	123,400	447	551,400	1,400	101	103	19,500	104	103	432
二条大麦	1,740	338	5,880	0	100	116	800	116	106	319
はだか麦	8	316	25	4	200	x	x	x	nc	…
都府県										
４麦計	147,500	…	464,900	1,800	101	nc	7,300	102	nc	…
小麦	89,200	337	301,000	1,100	101	106	21,200	108	110	305
二条大麦	35,800	286	102,400	100	100	92	△ 9,100	92	88	326
六条大麦	17,300	272	47,000	400	102	89	△ 4,500	91	93	294
はだか麦	5,240	277	14,500	230	105	95	△ 200	99	98	284

注：１　「(参考）10ａ当たり平均収量対比」とは、10ａ当たり平均収量（原則として直近７か年のうち、最高及び最低を除いた５か年の平均値）に対する当年産の10ａ当たり収量の比率である（以下各統計表において同じ。）。
　　２　全国、都府県及び全国農業地域別（以下「地域別」という。）の10ａ当たり平均収量は、各都府県の10ａ当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している。
　　ただし、地域別内の全ての都道府県の10ａ当たり平均収量がそろわない場合には作成しない（以下各統計表において同じ。）。
　　３　北海道において、六条大麦の作付けは行われていない。

表２－２　平成26年産４麦（子実用）の作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	４麦計		小麦				二条大麦				六条大麦				はだか麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比
	ha	t	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%
全国	**272,700**	**1,022,000**	**212,600**	**401**	**852,400**	**106**	**37,600**	**288**	**108,200**	**89**	**17,300**	**272**	**47,000**	**93**	**5,250**	**276**	**14,500**	**97**
北海道	125,200	557,300	123,400	447	551,400	103	1,740	338	5,880	106	－	－	－	nc	8	316	25	nc
都府県	147,500	464,900	89,200	337	301,000	110	35,800	286	102,400	88	17,300	272	47,000	93	5,240	277	14,500	98
東北	8,270	15,400	7,130	187	13,300	92	x	200	x	133	1,140	185	2,110	72	x	x	x	x
北陸	10,000	30,400	256	175	447	101	9	244	22	156	9,740	308	30,000	101	－	－	－	nc
関東・東山	38,500	116,700	21,000	365	76,600	112	12,600	234	29,500	69	4,860	218	10,600	76	56	255	143	85
東海	15,900	58,000	15,300	367	56,200	126	x	160	x	320	595	304	1,810	116	2	300	6	150
近畿	10,200	29,900	8,990	293	26,300	115	162	324	525	146	x	280	x	96	x	336	x	128
中国	5,050	15,400	1,830	283	5,170	106	2,730	340	9,290	96	85	216	184	113	414	176	727	87
四国	4,320	12,900	1,680	318	5,350	100	x	370	x	104	－	－	－	nc	2,620	286	7,490	92
九州	55,200	186,100	33,000	357	117,700	107	20,300	310	62,900	99	13	308	40	133	1,920	279	5,360	103
沖縄	23	49	23	215	49	128	－	－	－	nc	－	－	－	nc	－	－	－	nc

(2) 解　説

ア　小麦（子実用）

(ｱ)　作付面積

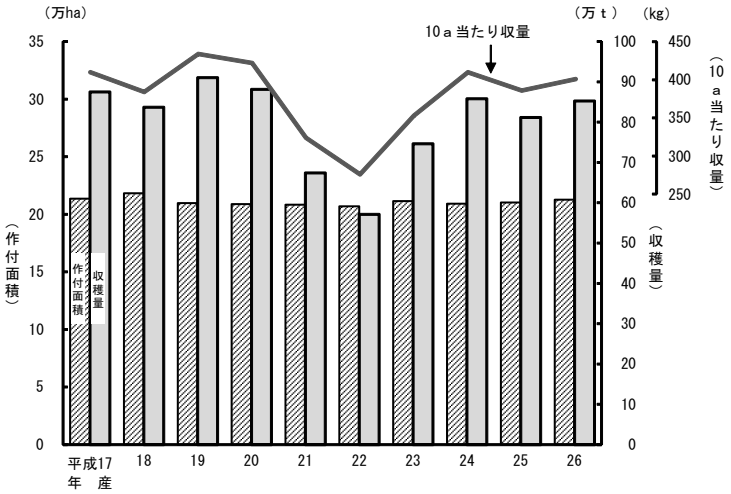
小麦の子実用作付面積は21万2,600haで、前年産に比べて2,400ha（１％）増加した。

このうち、北海道は12万3,400haで、他作物からの転換等により、前年産に比べて1,400ha（１％）増加した。

一方、都府県は８万9,200haで、前年産に比べて1,100ha（１％）増加した。

これは、東海、九州地域等において他作物からの転換等により、増加したためである（表２－１、２－２、図２－２）。

図２－２　小麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は401kgで、前年産に比べて４％上回った（表２－１、２－２、図２－２）。

ａ　北 海 道

10ａ当たり収量は447kgで、前年産に比べて３％上回った。

これは、天候に恵まれ生育がおおむね良好であったためである（表２－１、２－２、図２－３）。

ｂ　都 府 県

10ａ当たり収量は337kgで、前年産に比べて６％上回った。

これは、天候に恵まれ生育がおおむね良好であったためである（表２－１、２－２、図２－４）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は85万2,400ｔで、前年産に比べて４万700ｔ（５％）増加した。

このうち、北海道の収穫量は55万1,400tで、前年産に比べて１万9,500ｔ（４％）増加した。

一方、都府県の収穫量は30万1,000tで、前年産に比べて２万1,200t（８％）増加した（表２－１、２－２、図２－２）。

図２－３　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（帯広）

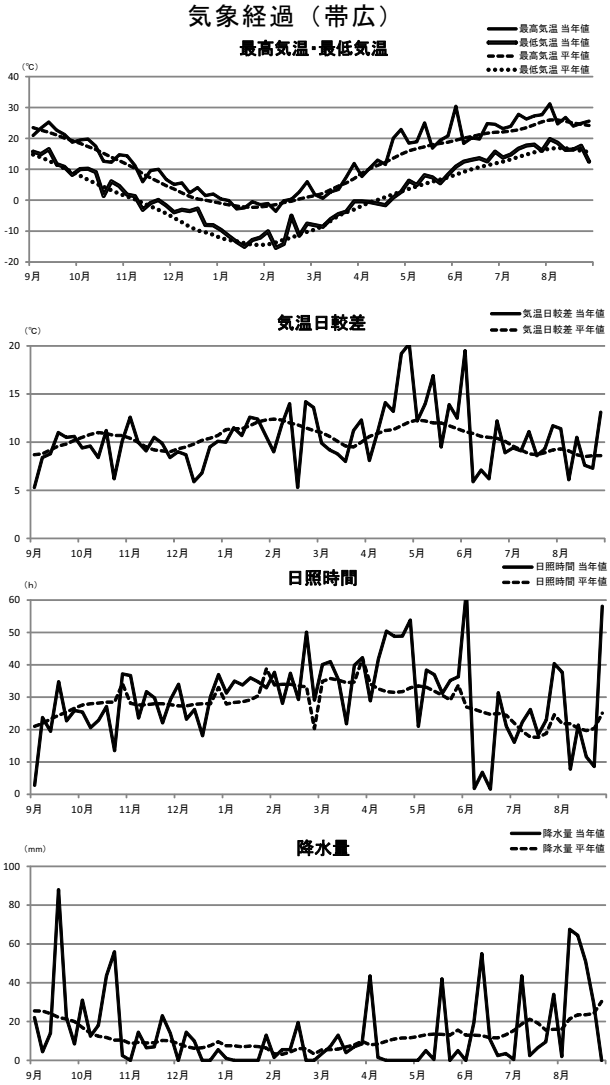
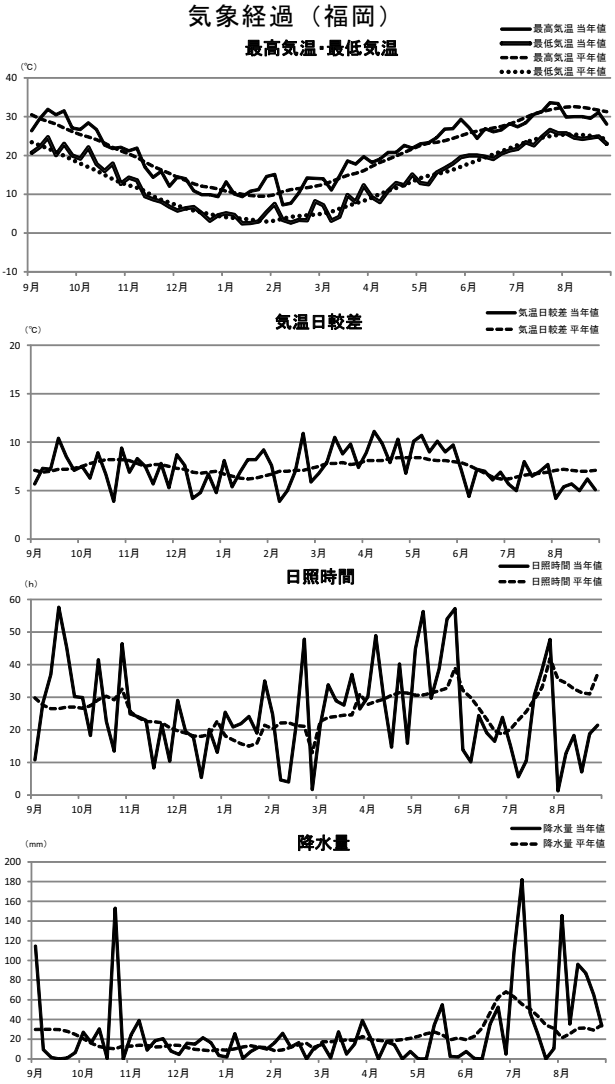


図２－４　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（福岡）



イ　二条大麦（子実用）

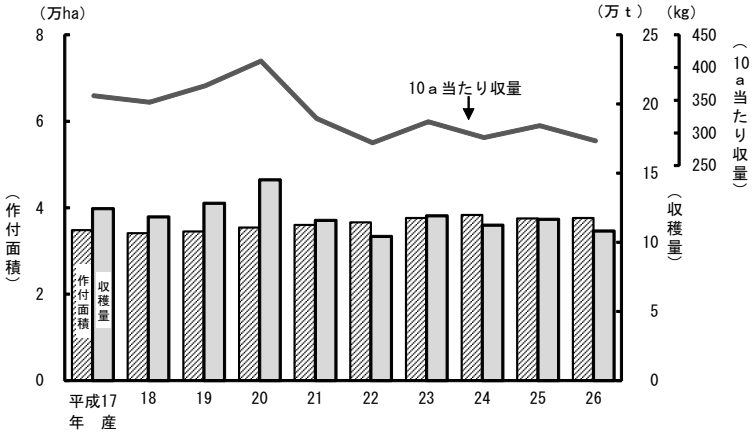
(ｱ)　作付面積

二条大麦の子実用作付面積は３万7,600haで、前年産とほぼ同数であった。

このうち、北海道は1,740haで、前年産と同数であった。

一方、都府県は３万5,800haで、九州地域等において増加したものの、関東・東山地域等において減少したため、前年産とほぼ同数であった（表２－１、２－２、図２－５）。

図２－５　二条大麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は288kgで、前年産に比べて７％下回った。

これは、関東地域において収穫期の降雨の影響等による穂発芽の発生等があったことから、前年産を下回ったためである（表２－１、２－２、図２－５、２－６、２－７）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は10万8,200ｔで、前年産に比べて8,400ｔ（７％）減少した（表２－１、２－２、図２－５）。

図２－６　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（栃木）

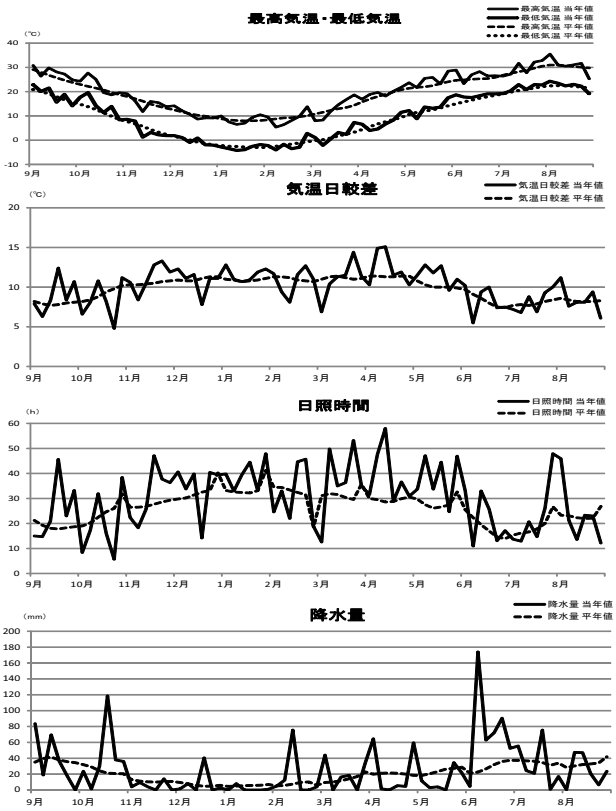
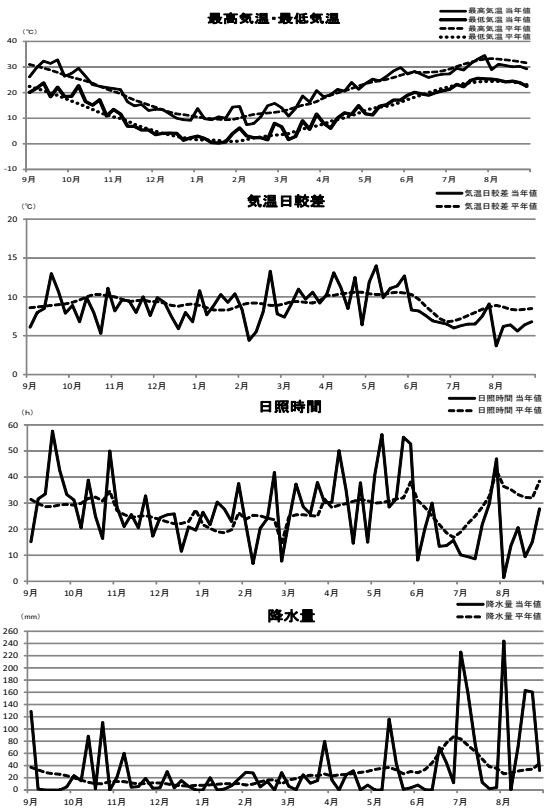


図２－７　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（佐賀）

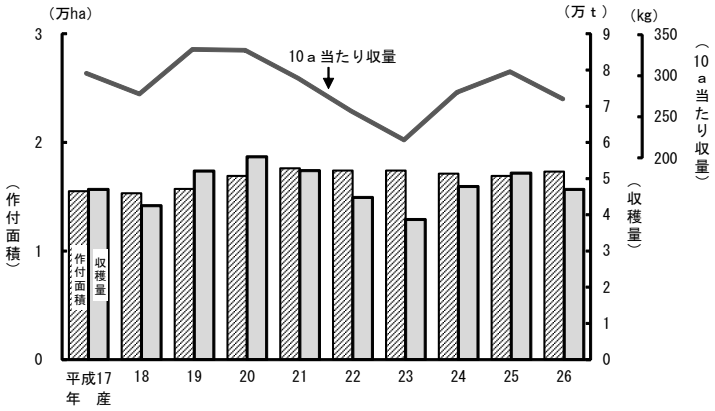


ウ　六条大麦（子実用）

(ｱ)　作付面積

六条大麦の子実用作付面積は１万7,300haで、前年産に比べて400ha（２％）増加した。これは、関東・東山、東北地域等において増加したためである（表２－１、２－２、図２－８）。

図２－８　六条大麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は272kgで、前年産に比べて11％下回った。これは、関東地域において収穫期の降雨の影響等による穂発芽の発生等があったことから、前年産を下回ったためである（表２－１、２－２、図２－８、２－９、２－10）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は４万7,000ｔで、前年産に比べて4,500ｔ（９％）減少した（表２－１、２－２、図２－８）。

図２－９　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（富山）

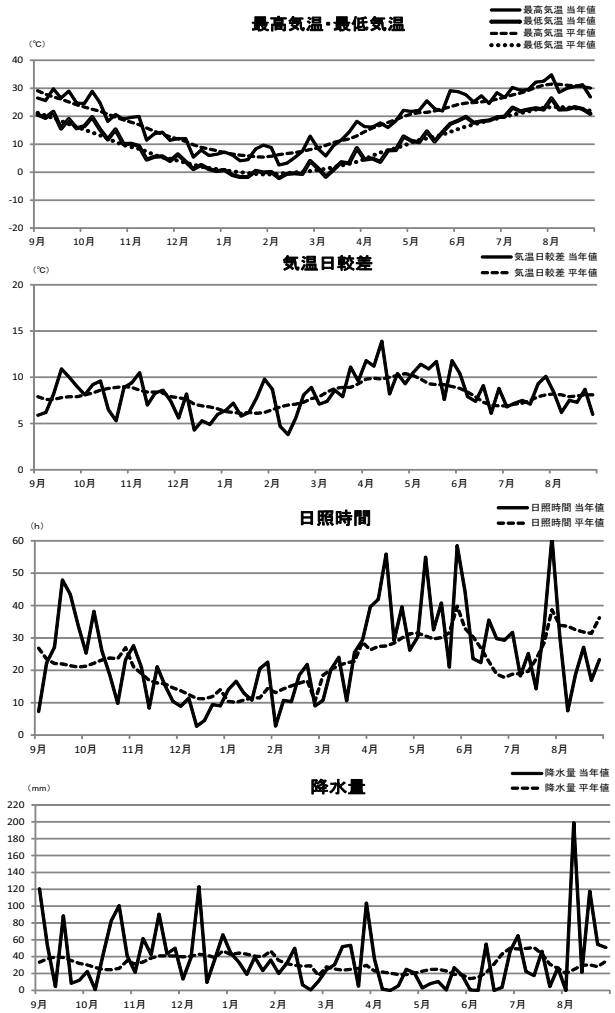
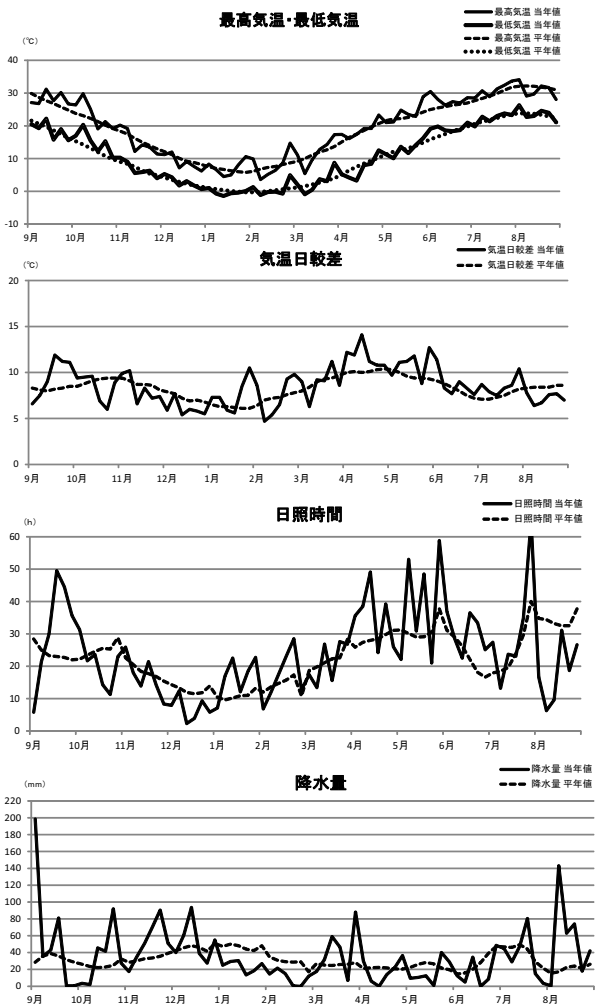


図２－10　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（福井）

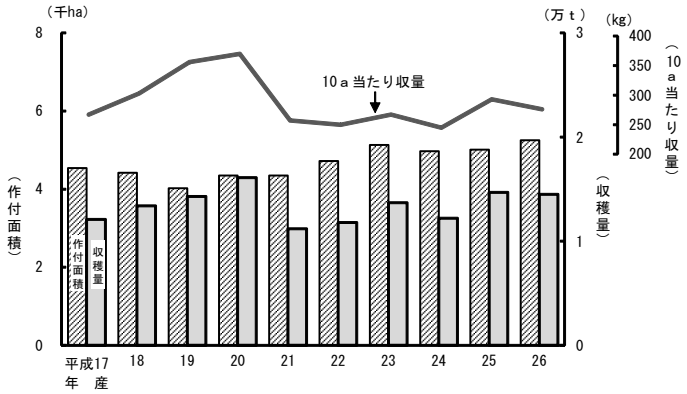


エ　はだか麦（子実用）

(ｱ)　作付面積

はだか麦の子実用作付面積は5,250haで、前年産に比べて240ha（５％）増加した。これは、九州、四国地域等において増加したためである（表２－１、２－２、図２－11）。

図２－11　はだか麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は276kgで、前年産に比べて６％下回った。

これは、香川県において、は種期の降雨による発芽不良及び２月中旬までの低温等の影響により生育の抑制があったことから、前年産を下回ったためである。（表２－１、２－２、図２－11、２－12、２－13）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は１万4,500ｔで、前年産に比べて200ｔ（１％）減少した（表２－１、２－２、図２－11）。

図２－12　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（愛媛）

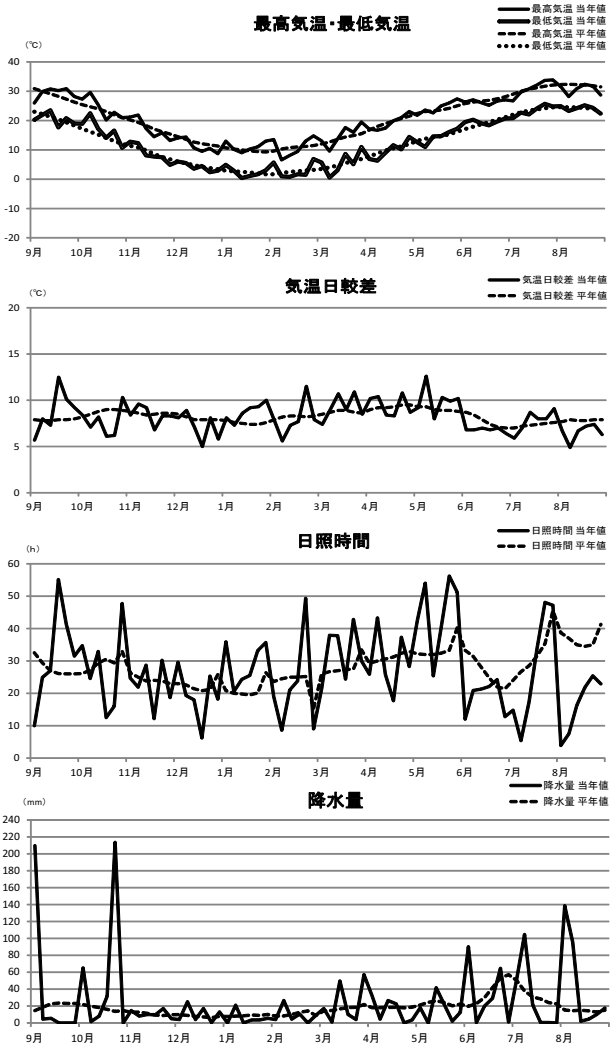
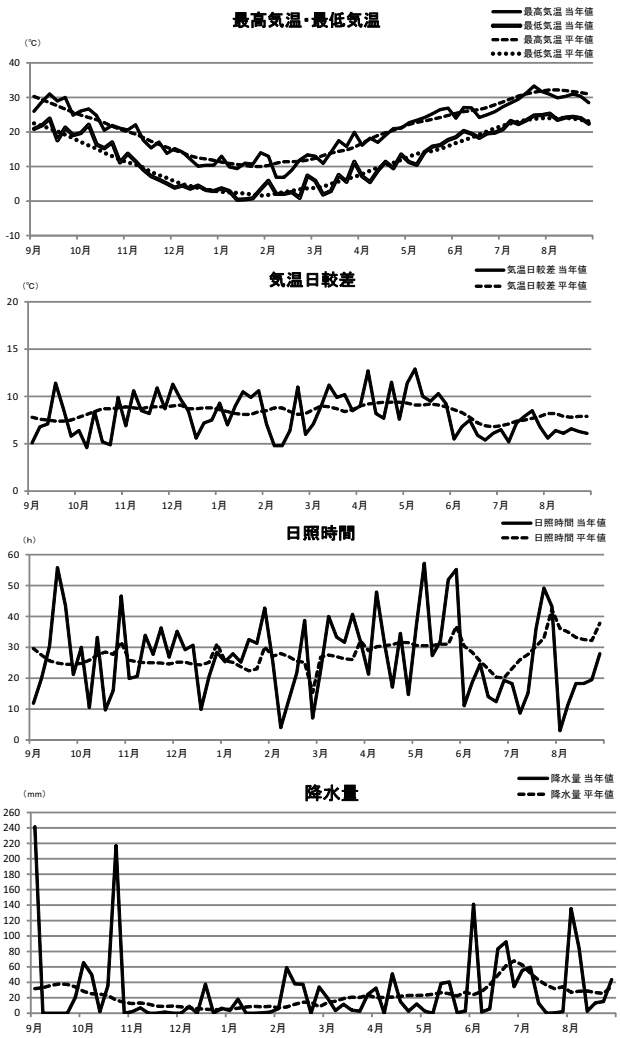


図２－13　平成26年産麦作期間の半旬別気象経過（大分）



3　豆　類・そ　ば

(1)　要　旨

平成26年産の豆類（乾燥子実）の全国の収穫量は、大豆が23万1,800ｔで、前年産に比べて３万1,900ｔ（16%）増加し、小豆が７万6,800ｔで、前年産に比べて8,800ｔ（13%）増加した。いんげんは２万500ｔで、前年産に比べて5,200ｔ（34%）増加した。らっかせいは１万6,100ｔで、前年産に比べて100ｔ（１%）減少した。

また、平成26年産そばの収穫量は３万1,100ｔで、前年産に比べて2,300ｔ（７%）減少した（表３）。

表３　平成26年産豆類（乾燥子実）及びそばの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	前年産との比較 作付面積 対比	前年産との比較 10ａ当たり収量 対比	前年産との比較 収穫量 対差	前年産との比較 収穫量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
大豆	131,600	176	231,800	2,800	102	114	31,900	116	104	169
小豆	32,000	240	76,800	△ 300	99	114	8,800	113	nc	…
いんげん	9,260	221	20,500	140	102	132	5,200	134	nc	…
らっかせい	6,840	235	16,100	△ 130	98	101	△ 100	99	nc	…
そば	59,900	52	31,100	△ 1,500	98	96	△ 2,300	93	87	60

注：　小豆、いんげん及びらっかせいの収穫量調査は主産県調査であり、３年周期で全国調査を実施している。平成26年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合算したものである。

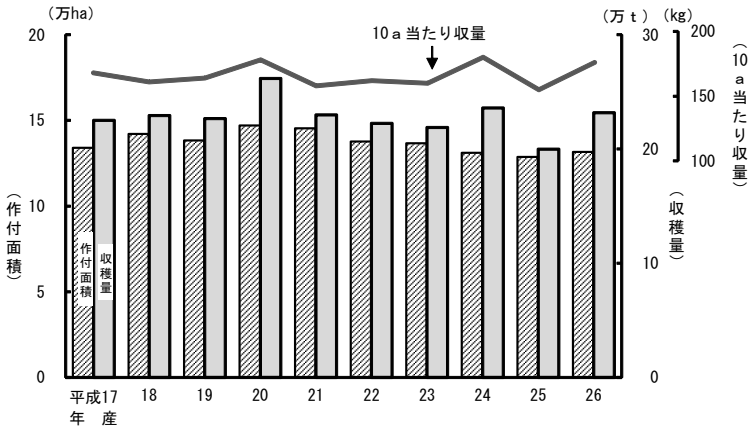
(2)　解　説

ア　大豆（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

平成26年産大豆の作付面積は13万1,600haで、前年産に比べて2,800ha（２%）増加した（表３、図３－１）。

図３－１　大豆の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は176kgで、前年産に比べて14%上回った。

これは、佐賀県等で８月の多雨・日照不足等により生育が抑制されたものの、北海道、東北等で天候に恵まれ生育がおおむね良好であったためである（表３、図３－１）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は23万1,800ｔで、前年産に比べて３万1,900ｔ（16%）増加した（表３、図３－１）。

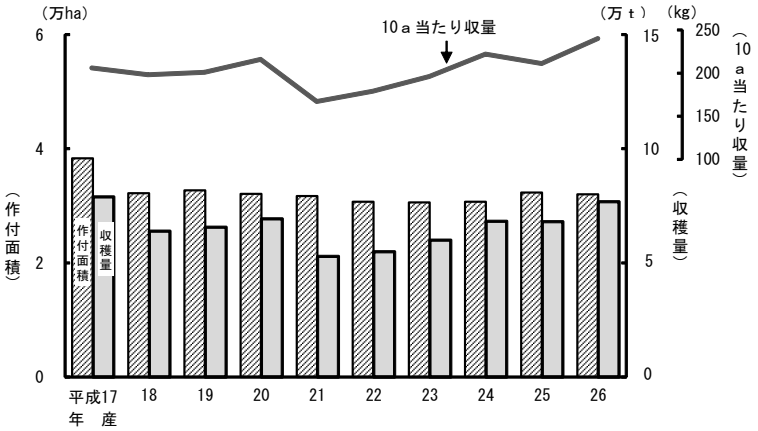
イ　小豆（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

平成26年産小豆の作付面積は３万2,000haで、前年産に比べて300ha（１％）減少した。

このうち、全国の約８割を占める北海道の作付面積は２万6,300haで、前年産とほぼ同数であった（表３、図３－２）。

図３－２　小豆の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は240kgで、前年産に比べて14％上回った。

これは、主産地である北海道において、天候に恵まれ生育が良好であったためである（表３、図３－２）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は７万6,800ｔで、前年産に比べて8,800ｔ（13％）増加した（表３、図３－２）。

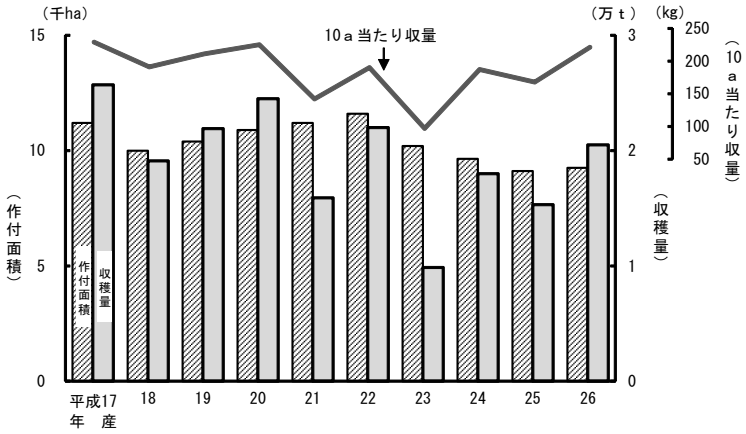
ウ　いんげん（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

平成26年産いんげんの作付面積は9,260haで、前年産に比べて140ha（２％）増加した。

このうち、全国の約９割を占める北海道の作付面積は8,540haで、前年産に比べて160ha（２％）増加した（表３、図３－３）。

図３－３　いんげんの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は221kgで、前年産に比べて32％上回った。

これは、主産地である北海道において、天候に恵まれ生育が良好であったことにより、作柄の悪かった前年産を大幅に上回ったためである（表３、図３－３）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は２万500ｔで、前年産に比べて5,200ｔ（34％）増加した（表３、図３－３）。

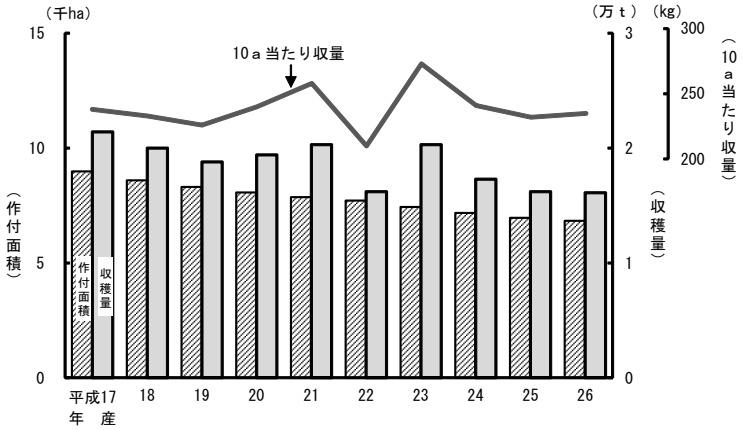
エ　らっかせい（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

平成26年産らっかせいの作付面積は6,840haで、前年産に比べて130ha（２％）減少した。

このうち、全国の約８割を占める千葉県の作付面積は5,300haで、前年産に比べて60ha（１％）減少した（表３、図３－４）。

図３－４　らっかせいの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は235kgで、前年産に比べて１％上回った（表３、図３－４）。

(ｳ)　収穫量

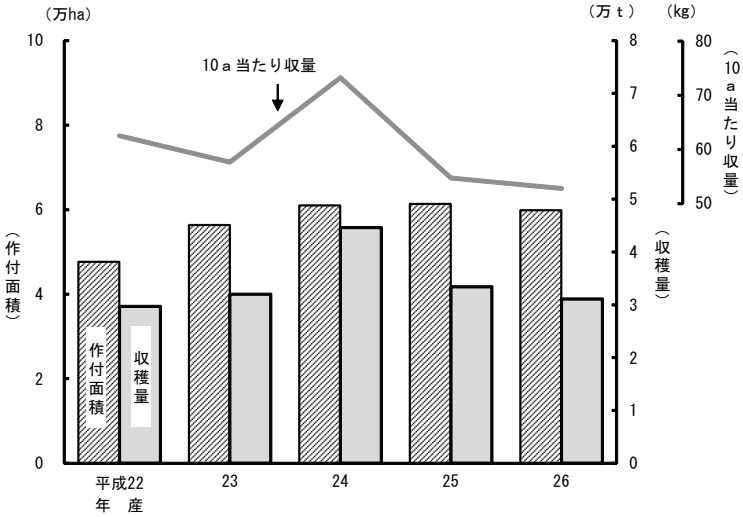
収穫量は１万6,100ｔで、前年に比べて100ｔ（１％）減少した（表３、図３－４）。

オ　そば

(ｱ)　作付面積

平成26年産そばの作付面積は５万9,900haで、前年産に比べて1,500ha（２％）減少した（表３、図３－５）。

図３－５　そばの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は52kgで、前年産に比べて４％下回った。

これは、北海道において７月下旬から８月中旬までの多雨等の影響により登熟が不良であったためである（表３、図３－５）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は３万1,100ｔで、前年産に比べて2,300ｔ（７％）減少した（表３、図３－５）。

４　かんしょ

(1)　作付面積

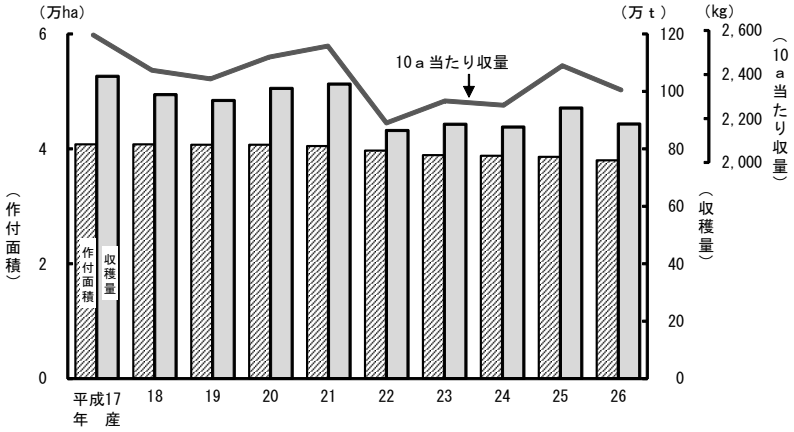
平成26年産かんしょの作付面積は３万8,000haで、前年産に比べて600ha（２％）減少した（表４、図４）。

(2)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は2,330kgで、前年産に比べて５％下回った。

これは、鹿児島県において６月から９月までの日照不足等の影響によりいもの肥大が抑制されたためである（表４、図４）。

図４　かんしょの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(3)　収穫量

収穫量は88万6,500ｔで、前年産に比べて５万5,800ｔ（６％）減少した（表４、図４）。

表４　平成26年産かんしょの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考） 10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
全国	38,000	2,330	886,500	△ 600	98	95	△ 55,800	94	nc	…
うち茨城	6,680	2,590	173,000	20	100	96	△ 7,500	96	98	2,640
千葉	4,290	2,530	108,500	△ 150	97	102	△ 1,600	99	100	2,540
静岡	701	1,700	11,900	△ 46	94	107	0	100	99	1,710
徳島	1,130	2,400	27,100	△ 10	99	98	△ 700	97	98	2,440
熊本	1,100	2,270	25,000	△ 40	96	102	△ 400	98	100	2,280
宮崎	3,590	2,620	94,100	150	104	96	200	100	102	2,570
鹿児島	13,400	2,510	336,300	△ 300	98	92	△ 37,700	90	95	2,630

注：　かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、３年周期で全国調査を実施している。平成26年産については全国を対象に調査を行った。

５　飼料作物

(1) 牧草

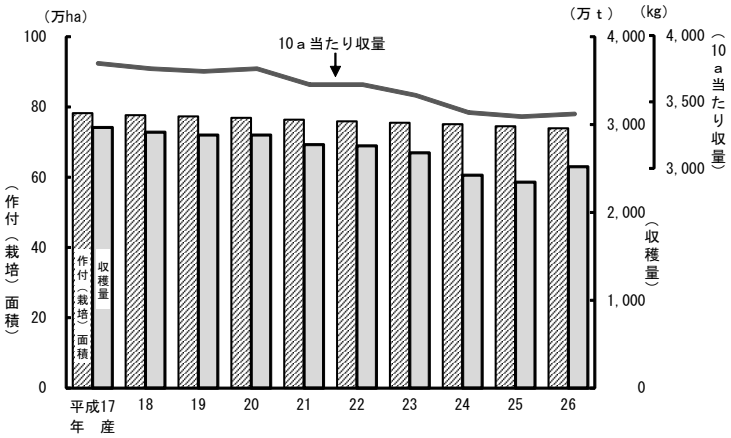
ア　作付（栽培）面積

全国の牧草の作付（栽培）面積は73万9,600haで、前年産に比べて5,900ha（１％）減少した（表５－１、図５－１）。

イ　10ａ当たり収量

全国の牧草の10ａ当たり収量は3,410kgで、前回の全国調査年である平成23年産に比べて４％下回った（表５－１、図５－１）。

図５－１　牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



注：　平成24年産及び平成25年産の10ａ当たり収量及び収穫量については、全国値の推計を行っていないため、主産県の合計値である。

ウ　収穫量

全国の牧草の収穫量は2,519万3,000ｔで、前回の全国調査年である平成23年産に比べて159万ｔ（６％）減少した（表５－１、図５－１）。

表５－１　平成26年産牧草の作付（栽培）面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付(栽培)面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較							（参考）	
				作付（栽培）面積			10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差		対比	対比	対差		対比		
	ha	kg	t	ha		%	%	t		%	%	kg
全国	739,600	3,410	25,193,000	△	5,900	99	nc	nc		nc	nc	…
うち北海道	541,500	3,220	17,436,000	△	4,300	99	102	134,000		101	97	3,320

注：　飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、３年周期で全国調査を実施している。平成26年産については全国の都道府県を対象に調査を行った。

(2)　青刈りとうもろこし

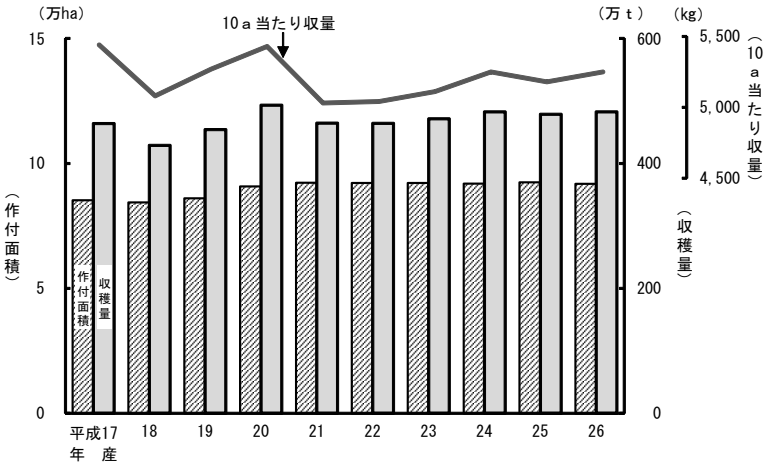
ア　作付面積

全国の青刈りとうもろこしの作付面積は９万1,900haで、前年産に比べて600ha（１％）減少した（表５－２、図５－２）。

イ　10ａ当たり収量

全国の青刈りとうもろこしの10ａ当たり収量は5,250kgで、前年産に比べて１％上回った（表５－２、図５－２）。

図５－２　青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

全国の青刈りとうもろこしの収穫量は482万5,000ｔで、前年産に比べて３万8,000ｔ（１％）増加した（表５－２、図５－２）。

表５－２　平成26年産青刈りとうもろこしの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量対比	（参考）10ａ当たり平均収量
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
全国	91,900	5,250	4,825,000	△ 600	99	101	38,000	101	nc	…
うち北海道	50,000	5,680	2,840,000	500	101	103	122,000	104	106	5,380

(3)　ソルゴー

ア　作付面積

全国のソルゴーの作付面積は１万5,900haで、前年産に比べて600ha（４％）減少した。

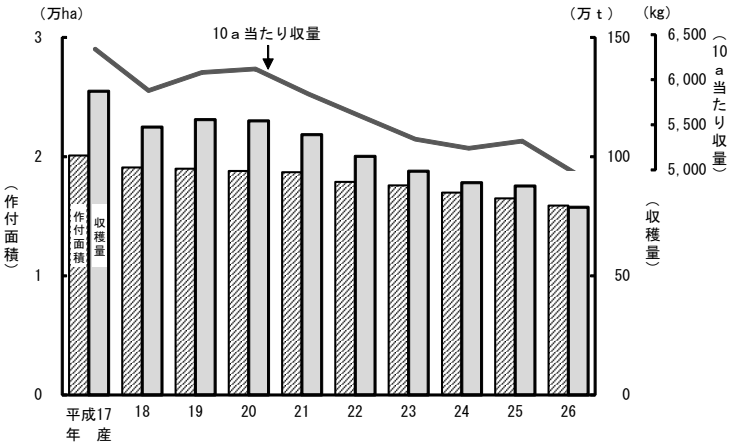
これは、他作物への転換等により減少したためである（表５－３、図５－３）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は4,960kgで、前年産に比べて７％下回った。

これは、九州地域において、６月から９月までの日照不足、降雨等の影響により生育が抑制されたためである（表５－３、図５－３）。

図５－３　ソルゴーの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

収穫量は78万7,900ｔで、前年産に比べて８万9,100ｔ（10%）減少した（表５－３、図５－３）。

表５－３　平成26年産ソルゴーの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量対比	（参考）10ａ当たり平均収量
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
全国	15,900	4,960	787,900	△ 600	96	93	△ 89,100	90	nc	…

６　工芸農作物

(1)　茶（全国）

ア　栽培面積

平成26年茶の栽培面積は４万4,800haで、前年に比べて600ha（１％）減少した（表６－１）。

表６－１　茶の栽培面積（全国）

単位：ha

区　　分	栽　培　面　積
平成25年	45,400
26	44,800
対前年比（％）	99

イ　摘採実面積

全国の茶の摘採実面積は３万9,200haであった（表６－２）。

ウ　生葉収穫量

全国の茶の生葉収穫量は38万9,700ｔであった（表６－２）。

エ　荒茶生産量

全国の荒茶生産量は８万3,600ｔで、前年産に比べて1,200ｔ（１％）減少した。

都府県別にみると、静岡県が３万3,100ｔ（全国に占める割合は40％）、次いで鹿児島県が２万4,600ｔ（同29％）、三重県が6,770ｔ（同８％）となっている（表６－２、図６－１）。

図６－１　荒茶生産量割合（全国）

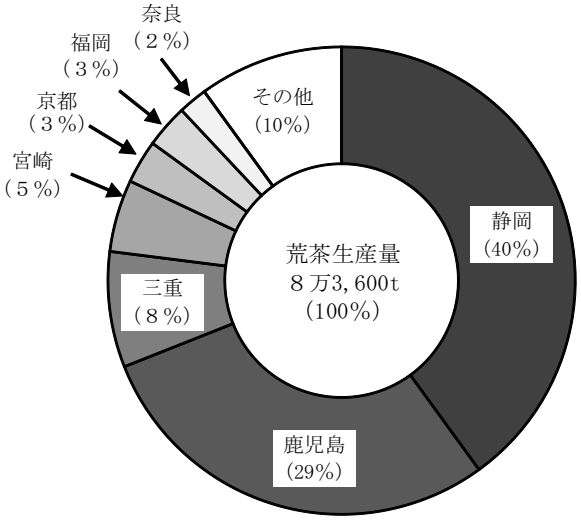


表６－２　平成26年の摘採面積、10ａ当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（全国）

区　　分	摘採面積		10ａ当たり生葉収量			生葉収穫量			荒茶生産量		
	実面積	延べ面積		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶
	ha	ha	kg	kg	kg	t	t	t	t	t	t
平成25年産	…	…	…	…	…	…	…	…	84,800	…	…
26	39,200	87,500	994	426	484	389,700	166,500	118,100	83,600	34,100	24,100
対前年産比（％）	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	99	nc	nc

注：　茶の収穫量調査は主産県調査であり、５年周期で全国調査を実施している。平成26年産については全国の都道府県を対象に調査を行った。

(2)　なたね

ア　作付面積

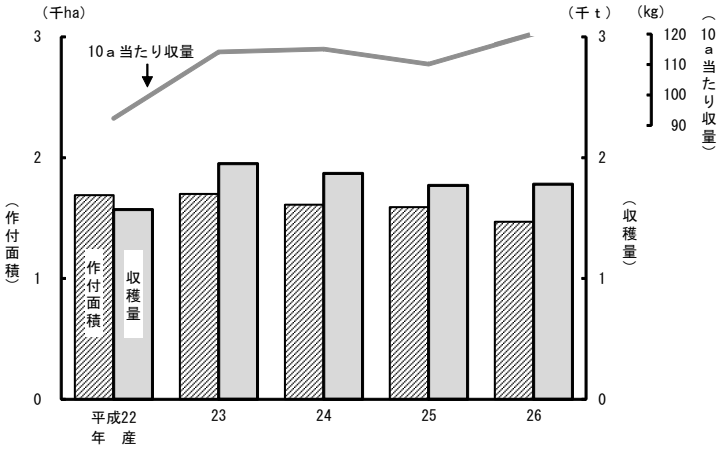
平成26年産なたねの作付面積は1,470haで、前年産に比べて120ha（８％）減少した（表６－３、図６－２）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は121kgで、前年産に比べて９％上回った。

これは、北海道、青森県等の主産地において生育期間の天候がおおむね良好であったためである（表6－3、図6－2）。

図６－２　なたねの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

収穫量は1,780ｔで、前年産に比べて10ｔ（１％）増加した（表６－３、図６－２）。

表６－３　平成26年産なたねの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較									（参考）	
				作付面積			10ａ当たり収量	収穫量					10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差		対比	対比	対差		対比				
	ha	kg	t		ha	%	%		t	%			%	kg
全国	**1,470**	**121**	**1,780**	**△**	**120**	**92**	**109**		**10**	**101**			**106**	**114**
北海道	404	203	820	△	26	94	110		29	104			111	183
都府県	1,060	90	955	△	100	91	107	△	23	98			102	88

(3)　てんさい

ア　作付面積

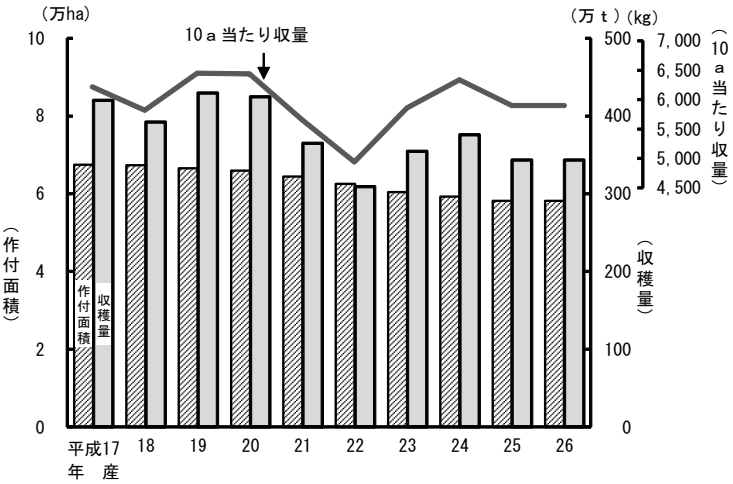
平成26年産てんさいの作付面積は５万7,400haで、前年産に比べて800ha（１％）減少した（表６－４、図６－３）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は6,210kgで、前年産に比べて５％上回った。

これは、生育期間が天候におおむね恵まれたことから根部の肥大が良好であったためである（表６－４、図６－３）。

図６－３　てんさいの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（北海道）



ウ　収穫量

収穫量は356万7,000ｔで、前年産に比べて13万2,000ｔ（４％）増加した（表６－４、図６－３）。

表６－４　平成26年産てんさいの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較							（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量				10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比				
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%			%	kg
北海道	57,400	6,210	3,567,000	△ 800	99	105	132,000	104			103	6,040

注：てんさいの収穫量調査は、北海道を対象に行っている。

(4)　さとうきび

ア　収穫面積

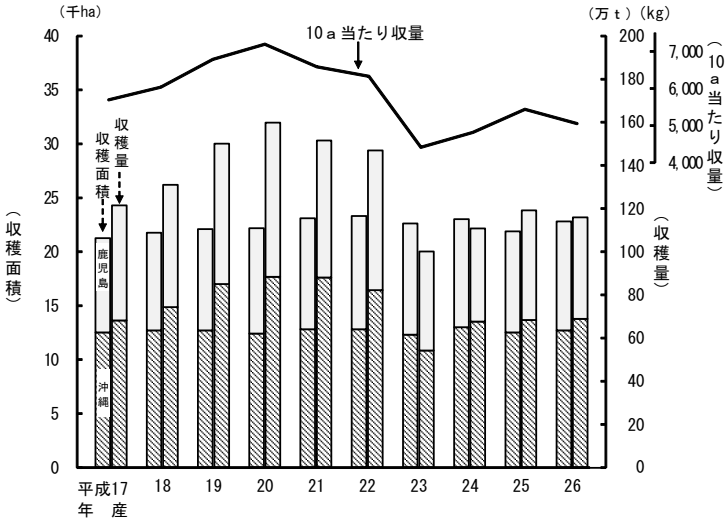
平成26年産さとうきびの収穫面積は２万2,900haで、前年産に比べて1,000ha（５％）増加した（表６－５、図６－４）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は5,060kgで、前年産に比べて７％下回った。

これは、７月から10月までにおける相次ぐ台風による被害があったことから、昭和49年産以降で平成23年産、平成24年産に次いで３番目に低い水準であった（表６－５、図６－４）。

図６－４　さとうきびの収穫面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移



ウ　収穫量

収穫量は115万9,000ｔで、前年産に比べて３万2,000ｔ（３％）減少した（表６－５、図６－４）。

表６－５　平成26年産さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積 計	収穫面積 夏植え	収穫面積 春植え	収穫面積 株出し	10ａ当たり収量 計	10ａ当たり収量 夏植え	10ａ当たり収量 春植え	10ａ当たり収量 株出し
	ha	ha	ha	ha	ha	kg	kg	kg	kg
全国　平成25年産	29,500	21,900	5,910	3,150	12,900	5,440	7,080	4,970	4,780
26	30,100	22,900	6,580	3,650	12,600	5,060	6,730	4,360	4,420
前年産との比較（％）	102	105	111	116	98	93	95	88	92
鹿児島	11,800	10,100	1,780	2,190	6,170	4,660	5,880	4,430	4,360
前年産との比較（％）	102	108	158	116	97	86	87	81	84
沖縄	18,200	12,700	4,800	1,460	6,460	5,420	7,050	4,270	4,460
前年産との比較（％）	102	102	100	115	100	99	98	102	101

区分	収穫量 計	収穫量 夏植え	収穫量 春植え	収穫量 株出し
	t	t	t	t
全国　平成25年産	1,191,000	418,600	156,500	616,200
26	1,159,000	442,900	159,300	557,100
前年産との比較（％）	97	106	102	90
鹿児島	470,500	104,700	97,000	268,800
前年産との比較（％）	93	137	94	82
沖縄	688,800	338,200	62,300	288,300
前年産との比較（％）	101	99	117	100

注：さとうきびの収穫量調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

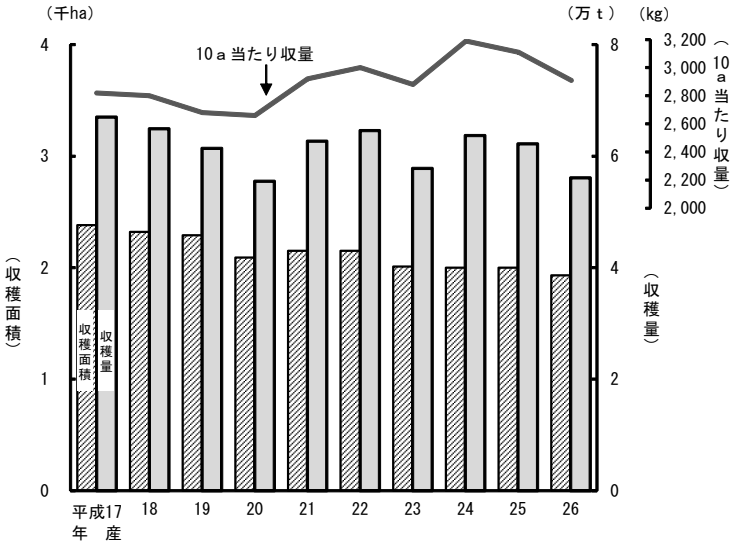
(5)　こんにゃくいも（主産県）

ア　栽培面積・収穫面積

主産県の平成26年産こんにゃくいもの栽培面積は3,490haで前年産に比べて80ha（２％）減少した。また、主産県の収穫面積は1,930haで前年産に比べて70ha（３％）減少した。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの栽培面積は3,360haで、前年産に比べて70ha（２％）減少し、収穫面積は1,850haで、前年産に比べて70ha（４％）減少した（表６－６、図６－５）。

図６－５　こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（主産県）



イ　10ａ当たり収量

主産県の10ａ当たり収量は2,910kgで、前年産に比べて６％下回った。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの10ａ当たり収量は2,930kgで、前年産に比べて６％減少した。

これは、８月下旬から９月上旬にかけての低温・日照不足の影響等によりいもの肥大が前年産を下回ったためである（表６－６、図６－５）。

ウ　収穫量

主産県の収穫量は５万6,100ｔで、前年産に比べて6,100ｔ（10%）減少した。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの収穫量は５万4,200ｔで、前年産に比べて5,900ｔ（10%）減少した（表６－６、図６－５）。

表６－６　平成26年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10ａ当たり収量及び収穫量（主産県）

区分	栽培面積	収穫面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較										（参考）	
					栽培面積			収穫面積			10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
					対差		対比	対差		対比	対比	対差		対比		
	ha	ha	kg	t		ha	%		ha	%	%		t	%	%	kg
主産県計	**3,490**	**1,930**	**2,910**	**56,100**	**△**	**80**	**98**	**△**	**70**	**97**	**94**	**△**	**6,100**	**90**	**100**	**2,910**
栃木	124	74	2,580	1,910	△	9	93	△	6	93	97	△	220	90	102	2,530
群馬	3,360	1,850	2,930	54,200	△	70	98	△	70	96	94	△	5,900	90	100	2,930

注：　こんにゃくいもの収穫量調査は主産県調査であり、３年周期で全国調査を実施している。平成26年産については主産県を対象に調査を行った。

(6)　い（主産県）

ア　作付面積

主産県（福岡県及び熊本県）の「い」の平成26年産作付面積は739haで、前年産に比べて79ha（10%）減少した。

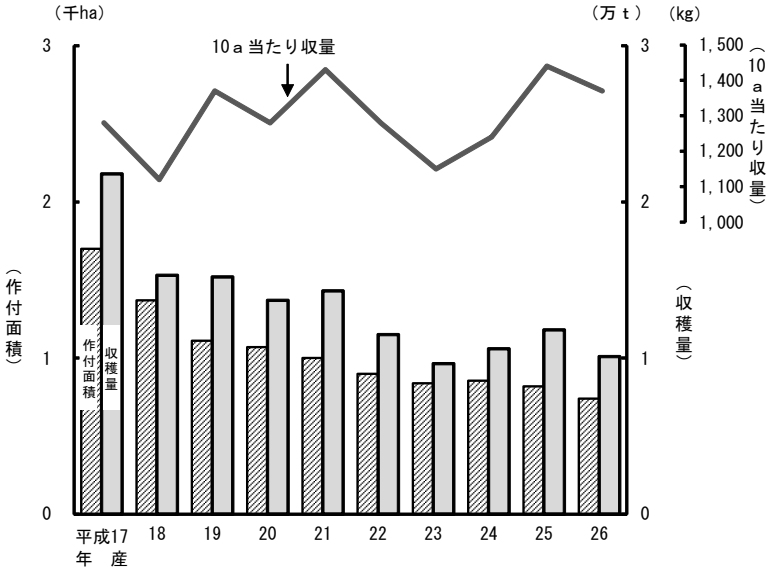
これは、他作物への転換等により作付けが減少したためである（表６－７、図６－６）。

イ　10ａ当たり収量

主産県の10ａ当たり収量は1,370kgで、前年産に比べて５%下回った。

これは、５月上旬の低温で生育が抑制され、その後６月中旬から７月上旬までの降雨により茎の伸長が回復したものの、作柄の良かった前年産を下回ったためである（表６－７、図６－６）。

図６－６　「い」の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（主産県）



ウ　収穫量

主産県の収穫量は１万100ｔで、前年産に比べて1,700ｔ（14%）減少した。

これは、作付面積の減少に加えて、10ａ当たり収量が前年産を下回ったためである（表６－７、図６－６）。

エ　畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は576戸で、前年産に比べて46戸（７%）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は560戸で、前年に比べて55戸（９%）減少した。

なお、平成25年７月から平成26年６月までの畳表生産量は3,670千枚で、前年に比べて240千枚（７%）増加した（表６－７）。

表６－７　平成26年産「い」の作付面積、10ａ当たり収量、収穫量等（主産県）

区分	「い」生産農家数	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考） 10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量	畳表生産農家数	畳表生産量
	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	戸	千枚
主産県計	**576**	**739**	**1,370**	**10,100**	**△ 79**	**90**	**95**	**△ 1,700**	**86**	**104**	**1,320**	**560**	**3,670**
福岡	14	14	1,350	189	△ 3	82	103	△ 34	85	108	1,250	12	53
熊本	562	725	1,370	9,930	△ 76	91	94	△ 1,670	86	104	1,320	548	3,620

注：１　「い」の収穫量調査は、福岡県及び熊本県を対象に行っている。
　　２　「い」生産農家数は、平成26年産の「い」の栽培を行った農家の数である。
　　３　畳表生産農家数は、平成25年７月から平成26年６月までに畳表の生産を行った農家の数である。
　　４　畳表生産量は、平成25年７月から平成26年６月までに生産されたものである。